

6. 史跡指定地外の取扱い

6-1 取扱い対象範囲及びゾーニング

6-1-1 取扱い対象範囲

史跡指定地の範囲外である二之丸内堀跡・三之丸及び城下町については、『福山市歴史文化基本構想』や『史跡福山城跡保存活用計画』において、文化的な空間の保全・創出、更には市民の主体的な参加や地域活動などと合わせて文化の薫り高い地域を守り、育てていく区域として捉えることが重要であるとしている。

史跡指定地外においては、まず、市民の理解が不可欠であることから、発掘調査の成果や文献資料を集積し、現存する遺構の保存を検討するとともに、当時の風景を映像化したバーチャルリアリティー（以下、「VR」という）等により復元して紹介するなど地域住民や市民との対話を図りながら積極的なアプローチを行い、かつての城郭の規模や城下町であったことを市民の記憶にとどめつつまちづくりを進めていく。

6-1-2 ゾーニング

史跡指定地外の取扱い方針を策定するにあたり、ゾーニング（エリア（地区）区分）を行い、区域ごとに取扱い方針を定めることとする。

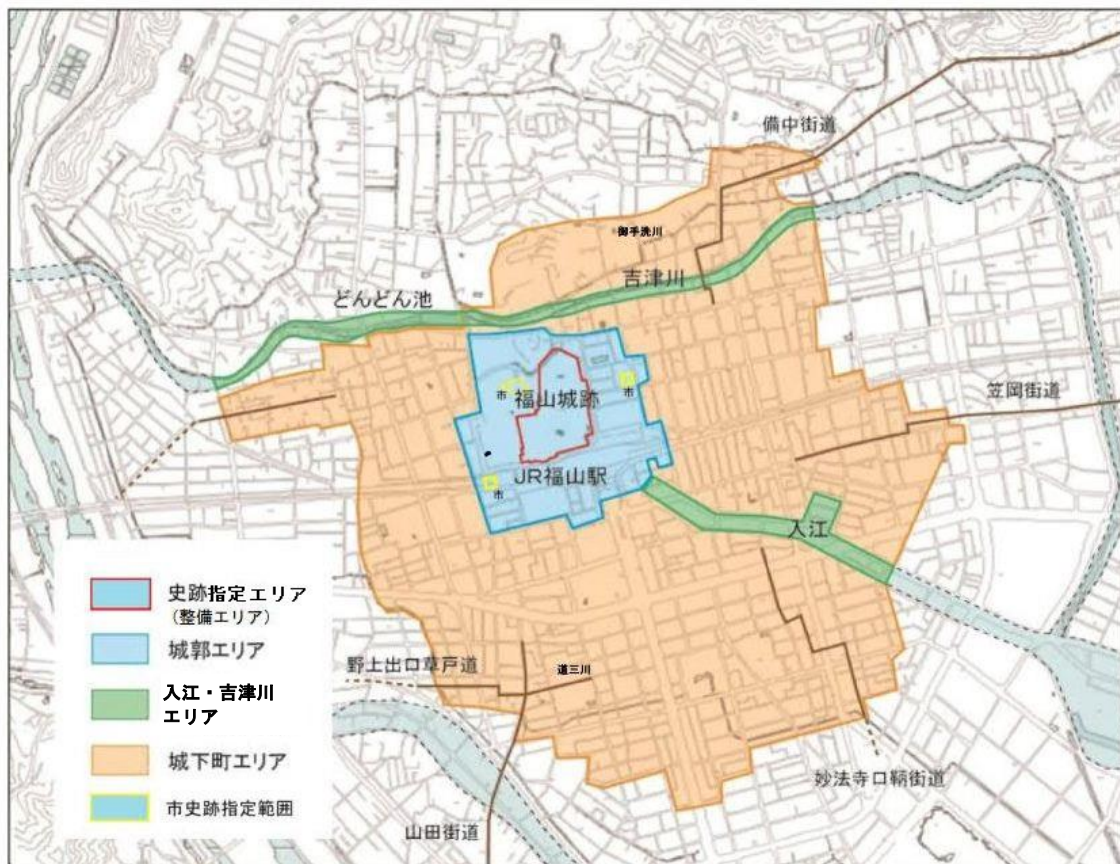


図 73 対象範囲区分図

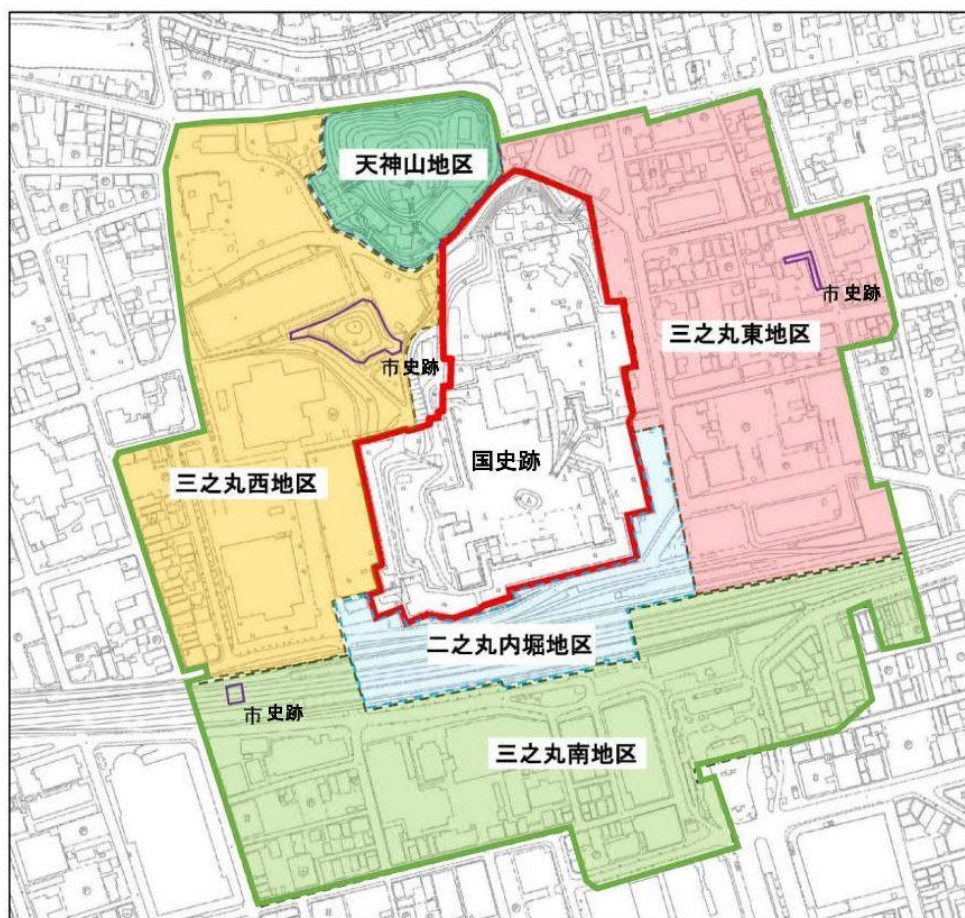
6. 史跡指定地外の取扱い

整備対象範囲である「史跡指定エリア」が、かつて城郭や城下町と一体となって機能していたことを理解しつつ、文化的な空間の保全や創出につなげていく地域として「城郭エリア」「入江・吉津川エリア」「城下町エリア」に区分する。(図 73 参照)

- 「城郭エリア」は、史跡指定地外にあたる周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）とされる広島県遺跡地図の範囲内とし、二之丸内堀・三之丸の範囲で、入江を除いた外堀までとする。
- 「入江・吉津川エリア」は、築城に伴い整備された入江や吉津川等の水辺の空間とする。
- 「城下町エリア」は、正保元年（1644年）幕府の指示により、福山城の城郭を中心に描いた『正保城絵図（国立公文書館蔵）』に示す城下町の範囲を福山城の歴史的空間が形成された範囲とし、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）としての取り扱いを念頭に対象範囲とする。また、全国的にも早い時期に水道施設が設けられていた範囲でもある。

(1) 城郭エリア (図 73・74)

史跡指定地以外の城郭のエリアである。埋め立てられた内堀・外堀や、北辺の小丸山・天神山を含む範囲。



【凡例】 — 国史跡指定範囲 — 市史跡指定範囲 — 城郭範囲

図 74 城郭地区内区分図

三之丸は、JR福山駅が設置されるなど既に市街地化しているが、「市史跡福山城三之丸西御門櫓台跡」「市史跡福山城三之丸北御門外^{まが}柵石塁跡」等があり、駅北口駐車場内には外堀内側の石垣が現存している。また、「ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）」や「ふくやま美術館」等の建設、駅北市道の拡幅に際しては確認調査・記録保存のための発掘調査が実施されており、その成果の一部は「福山市立福山城博物館」に展示され、露出展示、西側の外堀・内堀ラインや屋敷遺構のサイン表示等がされている。

このエリアは公園としての市民活用が最も図られている範囲でもあり、これまでの公園整備に伴い便益施設も設けられている。さらに、テニスコートや一般車両が進入可能な公園道路、市道、管理用道路等様々な諸施設が所在している。

三之丸のうち大手側である福山駅の南側においては、駅前広場整備事業等により外堀南東部で、福山城と瀬戸内海との関係を示す「舟入遺構」「御水門」が確認されており、地下には比較的良好に関連遺構が残されていることも明らかになっている。また、調査成果は櫓台の復元やサイン表示されるなど、駅前という環境の中での活用がなされている。

（2）入江・吉津川エリア（図 73）

入江は、城下町と瀬戸内海を結ぶ運河の役目を果たし、城下の物資を船で輸送する大動脈として活用された。また、外堀の近くには入江から侵入する船を遮断するとともに外堀の水量を調節する役目を持った「築切」が造られており、発掘調査でその跡が確認されている。

一方、城下の北を区切る堀の役目ともされる吉津川・御手洗川沿いには、城の北側を守る目的で建てられた神社や寺院の並ぶ通りがあり、城下町形成の歴史が残っている。また、川岸には城下町へ上水を供給した取水口があり、城下町の住民の水源となった大切な場所であった。

今後は城下町形成に由来する歴史的役割を踏まえ、市民啓発の場とする。

（3）城下町エリア（図 73）

旧城下町の範囲を含む広範囲なエリアである。地区内には、天下橋・木綿橋・道三川等が商店街等のシンボルとなっている他、全国五指（神田、近江八幡、赤穂、中津、福山）に入るとされる江戸時代初期の上水施設（上水道）が地下に遺存していると考えられる。なお、上水施設については、その範囲において開発等が行われる場合、試掘調査の実施を開発事業者に求め、それらの結果を精査し新たな埋蔵文化財包蔵地としての把握に努める。

6-1-3 各エリアの取扱い方針

（1）城郭エリア（城郭遺構取扱い地区）

当地区は最も開発が進んでいる範囲である。そのため、堀等の地下遺構については地権者の理解を求め、可能な限り現状保存に努め、遺構の地上表示や説明板を設置し、追加指定を検討する。

6. 史跡指定地外の取扱い

●二之丸内堀地区

内堀や鉄門、櫛形櫓などの建造物が所在した地区であるが、J R山陽線の敷地として利用され掘削や埋め立てが行われている。福山城口には、福山城の内堀をイメージした広場があり人々が日常的に集い・憩う地区となっている。

2019年(令和元年)に行われた発掘調査では、福山駅北側において内堀の石垣の一部が検出され、遺構の遺存が確認された。内堀については、発掘調査や文献、絵図等を基に遺構表示や説明板により周知を図る。(表8事業スケジュール4-8)

●三之丸南地区

三之丸地区でも開発が進んだ地域である。J R山陽線の敷設と福山駅の設置が近代から現代まで大きく発展した福山市の基礎となったことを文化財揭示や説明板を通して学ぶ地区とする。また、海から海水を堀に引き入れるという福山城の特徴を示す遺構としての舟入・御水門・築切・入江をイメージしてもらう地区とする。

なお、2007年(平成19年)から2010年(平成22年)にかけて行われた福山駅前広場整備に伴う発掘調査により、外堀跡及び舟入跡、御水門跡、二重櫓台跡などが検出された。将来の活用のためほとんどの遺構は埋め戻して大切に保管するとともに、二重櫓台の石垣の一部は復元整備している。また、地下送迎場進入と退出路の建設のため一部撤去された石垣石材は、搬出して市施設にて保管している。今後、福山城の特徴を示す遺構顕彰の視点から、遺構表示や取り扱いを検討する。

●三之丸西地区

サイン表示された石垣や堀などの地下遺構や高架下等に残る櫓台石垣、歴史・文学・美術等の既存博物館施設を巡ることで、福山城を中心とした備後南部地域の歴史・文化・芸術について学ぶ地区とする。

また、城北側の守りの要としての役割を担った小丸山(市史跡)については、テニスコート建設のために一部が削平されている。このため、将来この遺構保存や活用方法等についても検討していく。現在、指定地には、水野勝成寿蔵碑、江木鱈水碑、寺地舟里碑が置かれ、先人の森として位置づけられている。周辺整備とともに周知啓発を図り、「碑」のあり方についても取り扱いを検討して行く。

●三之丸東地区

市街地化が進み、高層建築物や低層住宅が混在して建つ地域である。市街地の中に外堀や櫓台の石垣(一部市史跡)が点在していることから、地表において標高の高低差に現れる外堀痕跡を観察することができる。これら遺構の活用を検討していくこととする。

●天神山地区

南裾は切岸等の築城技術を見ることのできる場所であり、城の北の守りの要とされた場所である。現在は緑豊かな緑地として残されており、今後もその景観(雰囲気)・城郭としての価値を損なわないように配慮する。

(2) 入江・吉津川エリア（入江・吉津川・蓮池）

城が海と繋がっていたことを示す入江（入川）や、城下町を囲う堀の役目及び上水施設の水源ともされる吉津川等については、文化財保護法が示す埋蔵文化財の取り扱いの中で可能な限り遺構の保存に努め、遺構の平面表示や説明板表示を検討し、歴史的役割の啓発に努めることにより、長期的な視野による顕在化を図る。

(3) 城下町エリア（武家屋敷・寺町・町家・上水施設等）

市内において都市開発が最も著しい一帯である。本地区では武家屋敷地区・寺町地区・町家地区や各街道の沿道を中心とした地区分けが必要であるが、まずは町並みや街道筋の現状調査を行い、それぞれの地区の性格を把握する。また、地下に残されている関連遺構については、市街地であるため復元・整備は難しいが、機会をとらえて工事立会（立会調査）等の実施により、遺構の有無及び残存状況を把握し、可能な限り記録保存に努めるとともに、データを蓄積し、VR制作等に活用する。全国五指に入るとされる上水施設については積極的な確認を行う。

6-2 周辺地域の環境保全に関すること

6-2-1 三之丸及び城下町における埋蔵文化財の保護

福山城の三之丸は明治の廃城後民間への払い下げが行われ、内堀及び外堀も埋められ市街地化してしまった。しかし、こうした中でも外堀の石垣が住宅地の中に一部遺存している場合や、地形・地割からその面影を推測できる場所も残されている。

外堀の外側石垣までは文化財保護法上の周知の埋蔵文化財包蔵地として法による保護協議の対象とされている。しかし現状保存ができない場合もあり、今後は発掘調査による記録保存や文献資料調査を進め、文化財としての価値を明らかにしたうえでデータ化し、VR等映像での復元に活用するとともに、文化財指定も検討し保護保全に努める。

また、城下町エリアについては現在のところその多くは埋蔵文化財包蔵地には含まれておらず、開発協議の対象とはされていない。城の東部には町人地が配されているが、ここには吉津川から水を引いた上水道が敷設された。

この「福山旧水道（福山上水）」は、江戸の神田上水などと並ぶ最古の近世都市上水の一つである。現在も地下にはその痕跡が残されており、江戸時代からの町名等も含め、地権者の理解のもと、今後調査を進めてその価値を顕在化させ、文化財として後世に伝えるべく記録保存に努め、そのデータを城下町としての歴史の理解に活用する。



図 75 御手洗川に残る江戸時代の上水道取水口跡

6. 史跡指定地外の取扱い



図 76 三之丸北御門外柵石塁跡



図 77 三之丸西御門櫓台跡



図 78 三之丸東外堀石垣跡

6-3 地域全体における関連文化財等との有機的な整備活用に関すること

6-3-1 福山市内の歴史遺産との連携

『福山市歴史文化基本構想』は、『瀬戸内の潮目に育まれた先進性と交流の気質、そして数々の困難を乗り越えてきた英知を伝える歴史文化』～人を育て、市民・地域で再発見し、守り、活かし、未来へ伝えよう～を文化財の保存・活用の基本理念とし、16の関連文化財群と9の歴史文化保存活用区域を設定し、社会全体で福山市の文化財を保存・活用していくためのマスタープランとして2018年(平成30年)にまとめたものである。本計画もこの歴史文化基本構想に基づく事業の一環として位置づけ、福山城に関わる関連文化財群や歴史文化保存活用区域の個々の文化財と連携しながら活用を図るものとする。

6-4 整備事業に必要となる調査等に関すること

6-4-1 福山城の縄張・普請に関する歴史学・考古学・建築史学の各調査の実施

福山城の縄張や普請、作事に関してはまだ不明な点が多い。整備事業を実施するうえにおいても新たに調査研究が必要な事案もある。例えば、二之丸西側上段石垣の復元・復元的整備においては、福山城の石垣の石材がどこから切り出されてきたものか不明である。石垣の正確な位置・規模についても今後の発掘調査の結果を待たなくてはならない。また、復元・復元的整備を計画する神辺一番櫓・東坂三階櫓・多聞櫓についても、その外観・構造についてはこれから史資料や古写真、同時期の城郭建築様式などの調査研究に依らなければならない。このようにまだまだ福山城に関する調査研究は必要であり、今後各方面からの協力を得ながら事業を進める。さらに、設計等に必要となる測量調査、地盤調査を実施する。

6-4-2 福山城跡の利用者に関する各種調査

史跡福山城跡を含む福山城公園には、史跡内に福山城博物館があり、史跡周辺には「広島県立歴史博物館」や「ふくやま美術館」「ふくやま文学館」「福山市人権平和資料館」など様々な施設が立地している。また、JR福山駅にも隣接していることなどから、日頃より多くの市民・観光客が訪れている。しかし、これら来訪者が何を目的にどこから来たのか？史跡福山城跡(福山城公園)に何を期待しているのか？など、これまでに来訪者の意識に関する詳細な調査が実施されていないことから、今後、史跡整備を行っていくうえで利用者の各種情報を収集し、整備事業の企画立案に反映し、より良い整備事業を行っていくよう努めていく。

7. 整備計画事業スケジュール

表8 事業スケジュール

史跡福山城跡整備計画（案）

1石垣

	No.	事業名称	第1期事業			第2期事業
			2020	2021	2022	2023以降
二之丸	1-1	石垣カルテ・石垣内部構造調査	カルテ・内部調査	カルテ		カルテ
	1-2	西側上段石垣復元	発掘、 石材同定調査	実施設計	着手	
	1-3	西側不要石材撤去	撤去			
	1-4	神辺一番櫓石垣下部整備	発掘・周辺整備			
	1-5	東上り櫓門周辺石垣下部整備	発掘	設計・着手		
	1-6	東下段石垣修理	発掘・カルテ	内部調査		検討
本丸	3-3	御台所門上り坂石垣復元	発掘	発掘		検討

2建造物

本丸	2-1	天守耐震・外観の復元的整備・展示計画	改修工事			
	2-2	天守入口までのバリアフリー化	検討	仮設着工		
	2-3	鏡櫓耐震・修繕整備	改修工事			
	2-4	月見櫓耐震・修繕整備	改修工事			
	2-5	御湯殿耐震・修繕整備	検討			
	2-6	土塀修理・美装化	瓦・壁改修工事			
	2-7	伏見櫓・筋鉄御門国宝化	各種調査	保存活用計画策定		
	2-8	伏見櫓・筋鉄御門修復	検討	改修		
	2-9	多聞櫓復元 (伏見櫓～筋鉄御門・本丸東側)				検討
二之丸	2-10	土塀修理・美装化	瓦・壁改修工事			
	2-11	神辺一番櫓復元				検討
	2-12	東坂三階櫓復元				検討

3通路・広場

本丸	3-1	動線・通路整備		計画	計画	設計 実施
	3-2	筋鉄御門上り坂復元	発掘	発掘		設計 整備
	3-3	御台所門上り坂復元	発掘	発掘		設計 整備
	3-4	園池埋め戻し	発掘・埋め戻し			
	3-5	本丸御殿表示				発掘 検討
二之丸	3-6	動線・通路整備		計画	計画	設計 整備
	3-7	五千石蔵跡の活用検討	検討			

4全体

広域	4-1	ライフライン整備	本丸・二之丸		電柱撤去	
	4-2	夜間照明整備	天守	鏡櫓		
	4-3	樹木整備	本丸	北側		
	4-4	サクラ整備			検討	
	4-5	石垣除草	定期的			
	4-6	サイン整備	計画	計画・作成・設置		史跡外
	4-7	遊具検討	検討			
	4-8	福山駅福山城口広場内堀表現	発掘	サイン表示	完成	
	4-9	排水対策		計画	計画	設計 実施
	4-10	管理施設・便益施設	検討			
	築切	検討				

7. 整備計画事業スケジュール

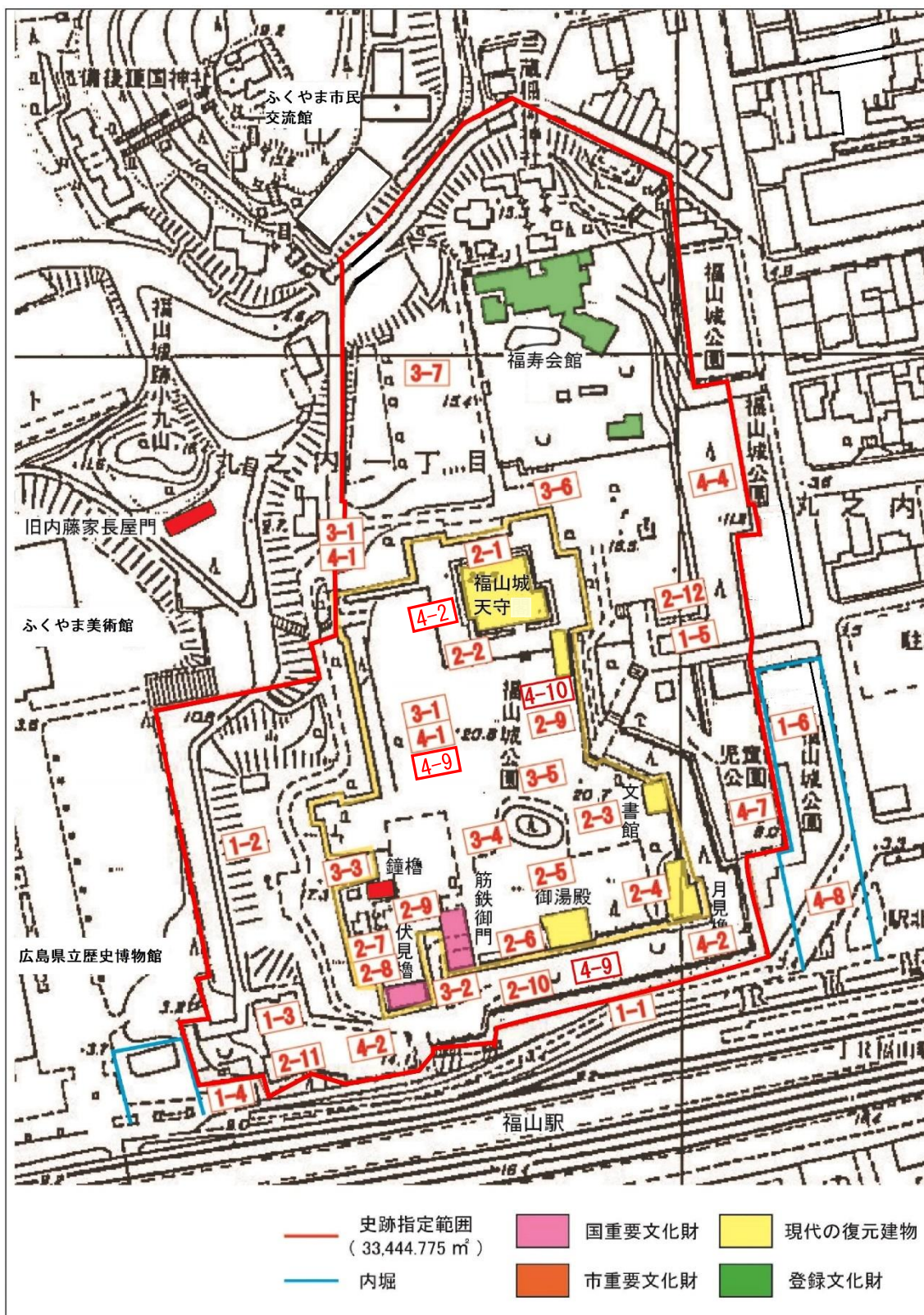


図 75 事業スケジュール位置図

8. 天守外観の復元的整備図

「5. 整備基本計画」の5-5-2「(1) 天守の耐震補強・外観の復元的整備及び展示の改修(第1期)」(P75)で述べた具体的な計画図である。

福山城天守の五層階は、これまで周囲が雨除け板戸で覆われていたことから、壁面の様子が不明であったが、近年の資料調査で明治初年頃に撮影された写真の中に雨戸をはずして撮影されたものが発見された。これにより壁面は大部分が引き違いの白漆喰塗籠板戸(以下、板戸という)であったことが判明した。南面は、花頭窓を中心に左右2箇所。東面は、花頭窓を挟んで南側2箇所と北側1箇所。北面は、中央に花頭窓があり東側2箇所。西面は、中央柱より南側2箇所が板戸となっている。また、柱は、長押以下が木部現しで黒く見えている、但し、東面と西面の中央柱は屋根まで木部現しとなっている。

また、全国唯一とされる福山城天守の北側鉄板張りや、千鳥破風内に設けられた鉄砲狭間、各層階の窓の色や配置などについても古写真等の資料を基に外観の復元的整備を行う。

計画図は、福山城天守の古写真・実測図・文献資料を基に、「福山市文化財保護審議会」、「史跡福山城跡保存整備検討委員」、「福山城築城400年記念事業実行委員会」等有識者の意見を得て作成した。

外観の復元的整備の根拠とした古写真

○五層階の壁面



1 南面・東面の壁面状況(拡大)



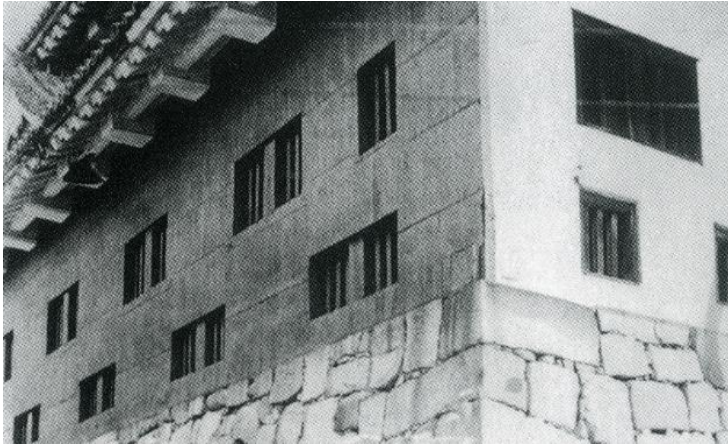
2 同左(遠景)

3 南面・東面の板戸をはずした状態(拡大)
(南面奥に西面の窓が、東面奥に北面の窓が見える)

4 同左(遠景)

8. 天守外観の復元的整備図

○北面の鉄板張り



5 北面の鉄板張り状態（拡大）
（細長い短冊状の鉄板を釘止めしている）



6 北面の鉄板張り全景

○鉄砲狭間

福山城天守では、六角形の鉄砲狭間が南面3，東面2，西面2の計7箇所確認されている。



7 南面三層階中央・東面四層階中央鉄砲狭間



8 東面二層階中央及び四層階中央の鉄砲狭間



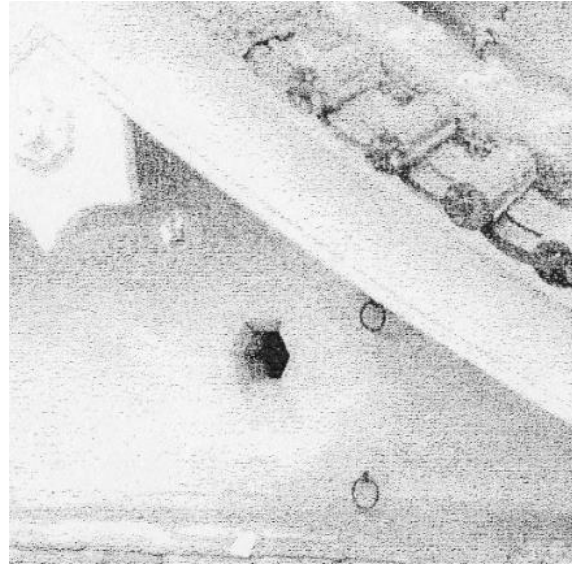
9 西面二層階中央及び四層階中央の鉄砲狭間



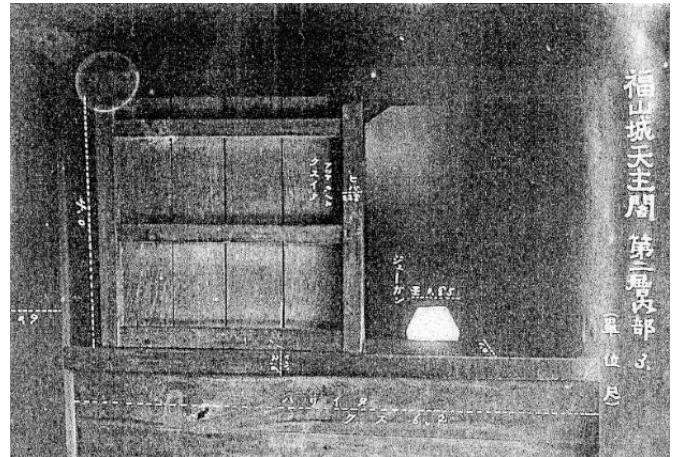
10 南面二層階東側鉄砲狭間



11 南面二層階西側鉄砲狭間



12 南面二層階西側鉄砲狭間近景



13 鉄砲狭間の寸法が記入された写真
(0.85尺 (26.1cm))

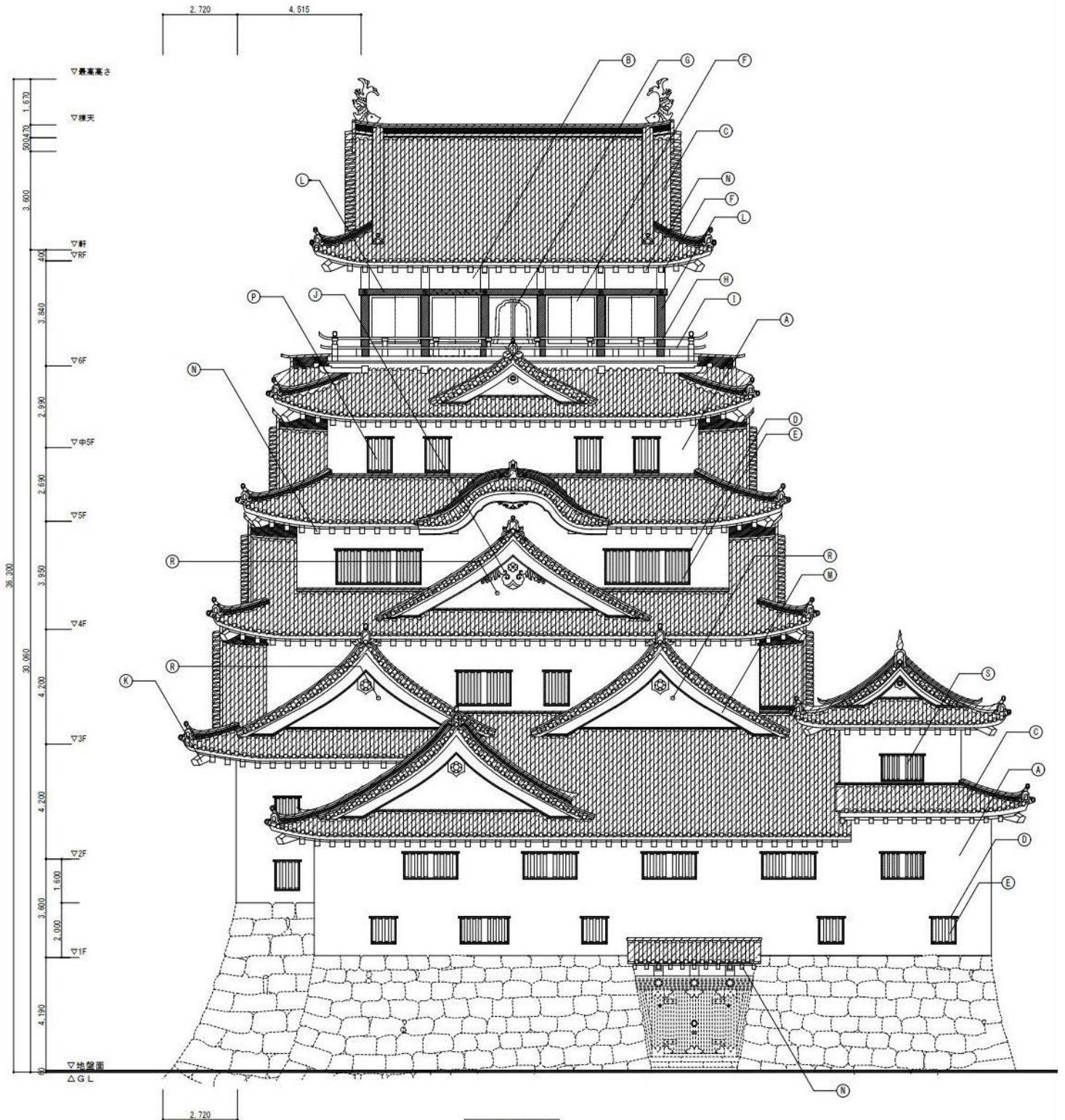
○南面二層階の中央窓



14 南面二層階の中央窓
(格子窓が2つに分かれている)

8. 天守外観の復元的整備図

南面改修後

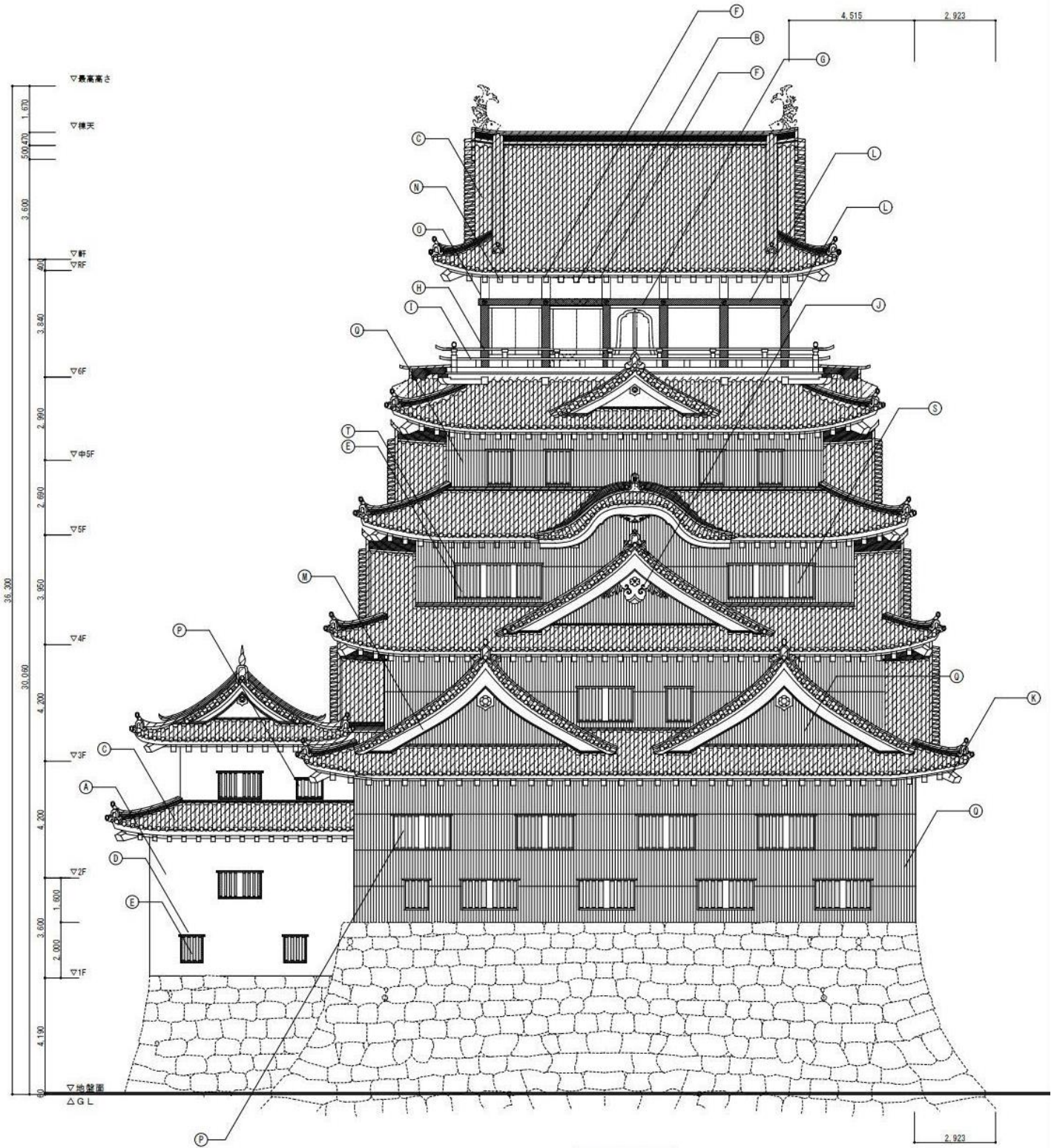


南立面図 1/100

凡例

A	外壁1	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	I	高欄 地覆/束/平析	既存塗膜除去、下地補修の上、 + 複層塗材E(トップコートのみ)【塗装新設】	D	天守北面外壁	下地補修の上、ケイ酸系塗布防水 + アルミ合金製スバンドレル t1.0【新設】
B	外壁2	耐震補強RC壁【新設】(仕上は外壁1と同じ)	J	彫魚	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	R	狭間	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】
C	屋根	本瓦葺【一部新設】	K	隅木飾	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	S	開口閉塞	コンクリート打放し(B種)の上、 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】
D	窓枠	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】	L	梁型・柱型	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】	T	天守北面窓枠	スチール t1.6 OP 曲げ加工【新設】
E	窓格子	St. PL-3.0 曲げ加工 90×30 DP【新設】 (柱型)St. PL-3.0 曲げ加工 240×45 DP【新設】	M	破風板	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】			
F	外部建具2	木製窓【新設】	N	垂木	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】			既存のままを示す
G	花頭窓	木製建具(花頭窓風裝飾付)【新設】	O	六葉釘隠し	銅板 t0.5【新設】			
H	高欄 架木	下地調整、DP【塗装新設】	P	外部建具2	アルミ製窓【新設】			

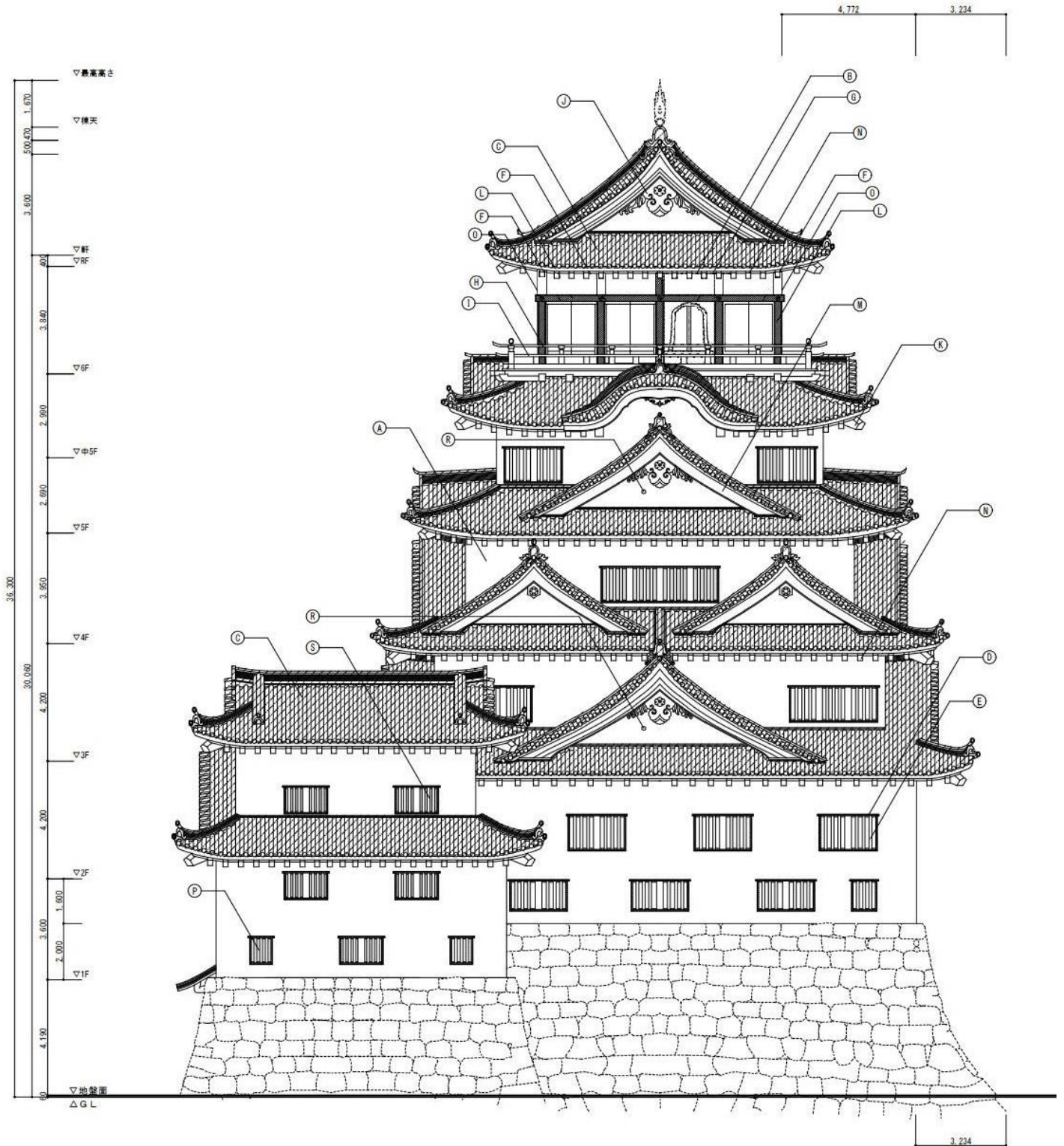
北面改修後



北立面図 1/100

凡例		北立面図 1/100	
(A) 外壁1	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	(I) 高欄 地覆/床/平析	既存塗膜除去、下地補修の上、複層塗材E(トップコートのみ)【塗装新設】
(B) 外壁2	耐震補強RC壁【新設】(仕上は外壁1と同じ)	(J) 懸魚	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】
(C) 屋根	本瓦葺【一部新設】	(K) 隔木筋	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】
(D) 窓枠	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】	(L) 梁型・柱型	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】
(E) 窓格子	St. PL-3.0 曲げ加工 90×30 DP【新設】(柱型)St. PL-3.0 曲げ加工 240×45 DP【新設】	(M) 破風板	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】
(F) 外部建具2	木製窓【新設】	(N) 垂木	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】
(G) 花頭窓	木製建具(花頭窓風裝飾付)【新設】	(O) 六葉釘隠し	銅板 t:0.5【新設】
(H) 高欄 架木	下地調整、DP【塗装新設】	(P) 外部建具2	アルミ製窓【新設】
(I) 天守北面外壁	下地補修の上、ケイ酸質系塗布防水 + アルミ合金製スパンドレル t:1.0【新設】	(Q) 狭間	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】
(R) 開口閉塞	コンクリート打放し(B種)の上、複層塗材E(トップコートのみ)【新設】	(S) 天守北面窓枠	スチール t:1.6 DP 曲げ加工【新設】
(T) 既存のままを示す			

東面改修後



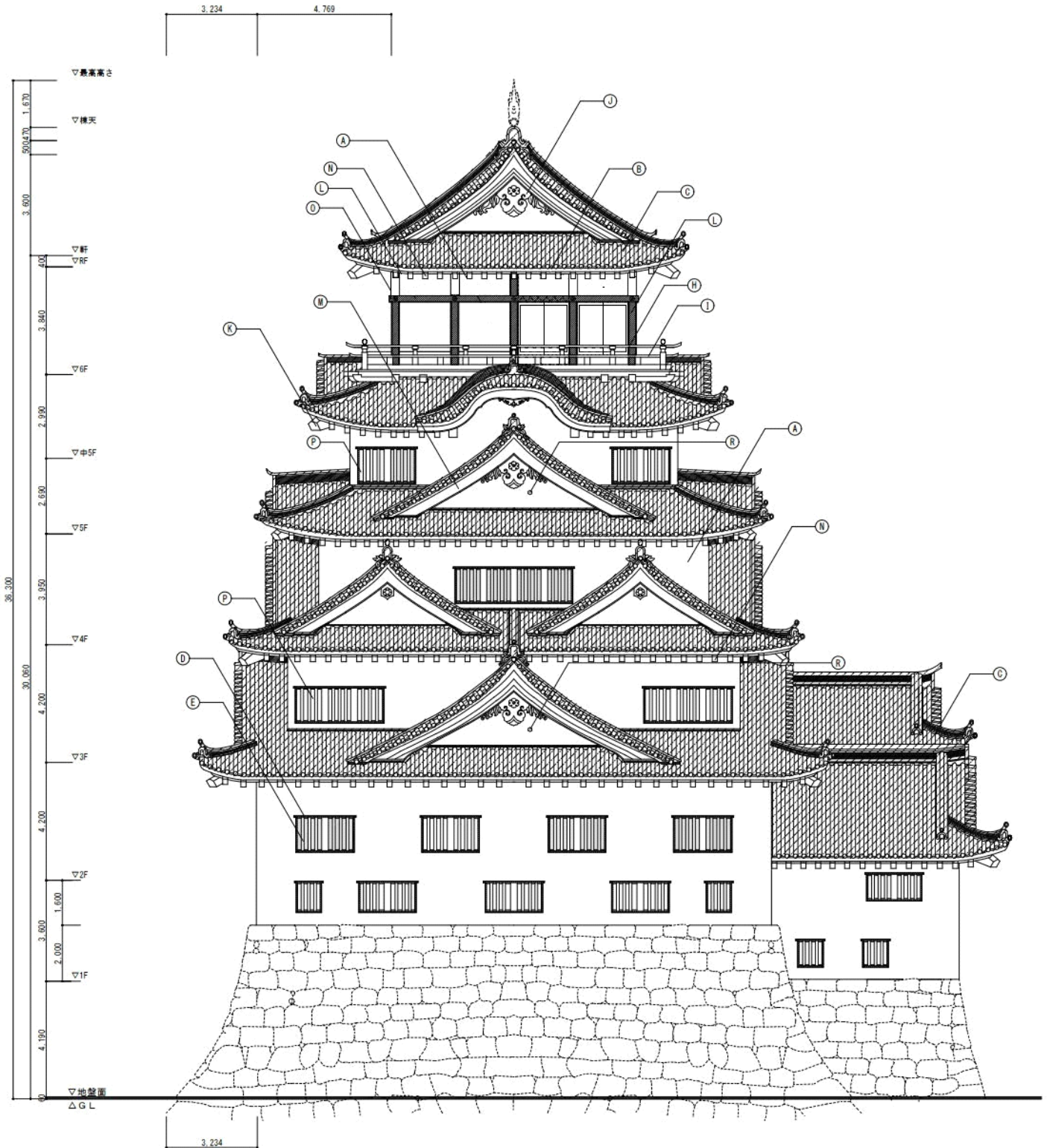
東立面図 1/100

凡例

①	外壁1	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	①	高欄 地覆/東/平桁	既存塗膜除去、下地補修の上、 + 複層塗材E(トップコートのみ)【塗装新設】	⑥	天守北面外壁	下地補修の上、ケイ酸質系塗布防水 + アルミ合金製スバンドレル t1.0【新設】
②	外壁2	耐震補強RC壁【新設】(仕上は外壁1と同じ)	②	懸魚	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	⑦	狭間	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】
③	屋根	本瓦葺【一部新設】	③	隅木筋	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	⑧	開口閉塞	コンクリート打放し(B種)の上、 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】
④	窓枠	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】	④	梁型・柱型	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】	⑨	天守北面窓枠	スチール t1.6 OP 曲げ加工【新設】
⑤	窓格子	St. PL-3.0 曲げ加工 90×30 DP【新設】 (柱型) St. PL-3.0 曲げ加工 240×45 DP【新設】	⑤	破風板	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】			
⑥	外部建具2	木製窓【新設】	⑥	垂木	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】			
⑦	花頭窓	木製建具(花頭窓風裝飾付)【新設】	⑦	穴葉釘隠し	銅板 t0.5【新設】			既存のままを示す
⑧	高欄 架木	下地調整、DP【塗装新設】	⑧	外部建具2	アルミ製窓【新設】			

8. 天守外観の復元的整備図

西面改修後



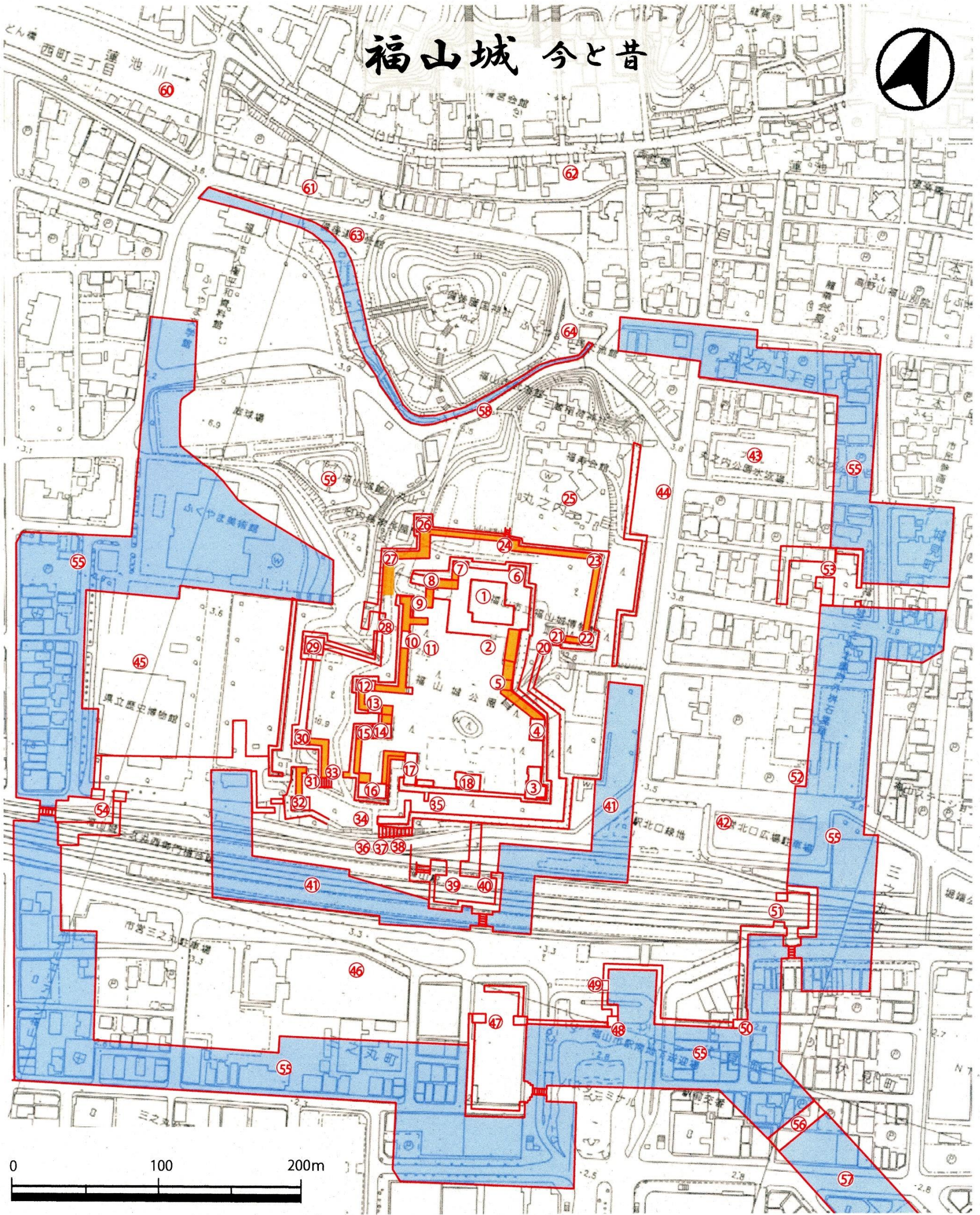
凡例

西立面図 1/100

(A) 外壁1	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	(I) 高欄 地覆/東/平桁	既存塗膜除去、下地補修の上、 + 複層塗材E(トップコートのみ)【塗装新設】	(Q) 天守北面外壁	下地補修の上、ケイ酸質系塗布防水 + アルミ合金製スパンドレル t1.0【新設】
(B) 外壁2	耐震補強RC壁【新設】(仕上は外壁1と同じ)	(J) 懸魚	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	(R) 狭間	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】
(C) 屋根	本瓦葺【一部新設】	(K) 隅木飾	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】	(S) 開口閉塞	コンクリート打放し(B種)の上、 + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】
(D) 窓枠	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】	(L) 梁型・柱型	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材E(トップコートのみ)【新設】	(T) 天守北面窓枠	スチール t1.6 OP 曲げ加工【新設】
(E) 窓格子	St. PL-3.0 曲げ加工 90×30 DP【新設】 (柱型) St. PL-3.0 曲げ加工 240×45 DP【新設】	(M) 破風板	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】		
(F) 外部建具2	木製窓【新設】	(N) 垂木	下地補修の上、モルタルコテ押え + 複層塗材 + 吹付A【新設】		既存のままを示す
(G) 花頭窓	木製建具(花頭窓風裝飾付)【新設】	(O) 六葉釘隠し	銅板 t 0.5【新設】		
(H) 高欄 架木	下地調整、DP【塗装新設】	(P) 外部建具2	アルミ製窓【新設】		

付図

福山城 今と昔



- | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------|--------|--------|---------|----------|------|-------|
| 【本丸】 | ⑧二階櫓 | ⑩伏見櫓 | ⑫鬼門櫓 | ⑭西坂口門 | ⑯鉄御門 | ⑰家老屋敷 | ⑱西御門 | ⑲吉津川 |
| ①天守 | ⑨榎木御門 | ⑪筋鉄御門 | ⑬蔵口門 | ⑮神辺一番櫓 | ⑰四つ足門 | ⑱大手門 | ⑳外堀 | ㉑赤門 |
| ②天守曲輪門 | ⑫荒布櫓 | ⑬御湯殿 | ⑭五千石蔵 | ⑯西腰曲輪門 | ⑰内堀 | ⑱二重櫓 | ㉑築切 | ㉒清水口門 |
| ③月見櫓 | ⑬黄金水 | ⑭本丸御殿 | ⑮乾櫓 | ⑯坂上番所 | 【三之丸】 | ⑱御水門 | ㉒入江 | |
| ④鏡櫓 | ⑭人質櫓 | 【二之丸】 | ⑰神辺四番櫓 | ⑱二帯曲輪門 | ⑲三之丸御殿 | ⑳二重櫓 | ㉒上水道 | |
| ⑤亭櫓 | ⑮御台所門 | ⑰鹿角菜櫓 | ⑱水の手御門 | ⑲櫛形櫓 | ⑳御用屋敷 | ㉑東御門 | ㉒小丸山 | |
| ⑥玉櫓 | ⑯鐘櫓 | ⑱東上り櫓門 | ⑲神辺三番櫓 | ⑲西坂口門 | ㉑馬場 | ㉒物見櫓(涼櫓) | ㉒蓮池 | |
| ⑦塩櫓 | ⑱火打櫓 | ⑲東坂三階櫓 | ⑲神辺二番櫓 | ⑲鉄砲櫓 | ㉑城代家老屋敷 | ㉒北御門 | ㉒黒門 | |
- ...多間櫓

史跡福山城跡整備基本計画

発行日 2020年（令和2年）10月28日

編集・発行 福山市教育委員会（福山市経済環境局文化観光振興部文化振興課）
〒720-8501 広島県福山市東桜町3番5号

電話：(084) 928-1278 FAX：(084) 928-1736

E-mail：bunkazai@city.fukuyama.hiroshima.jp